

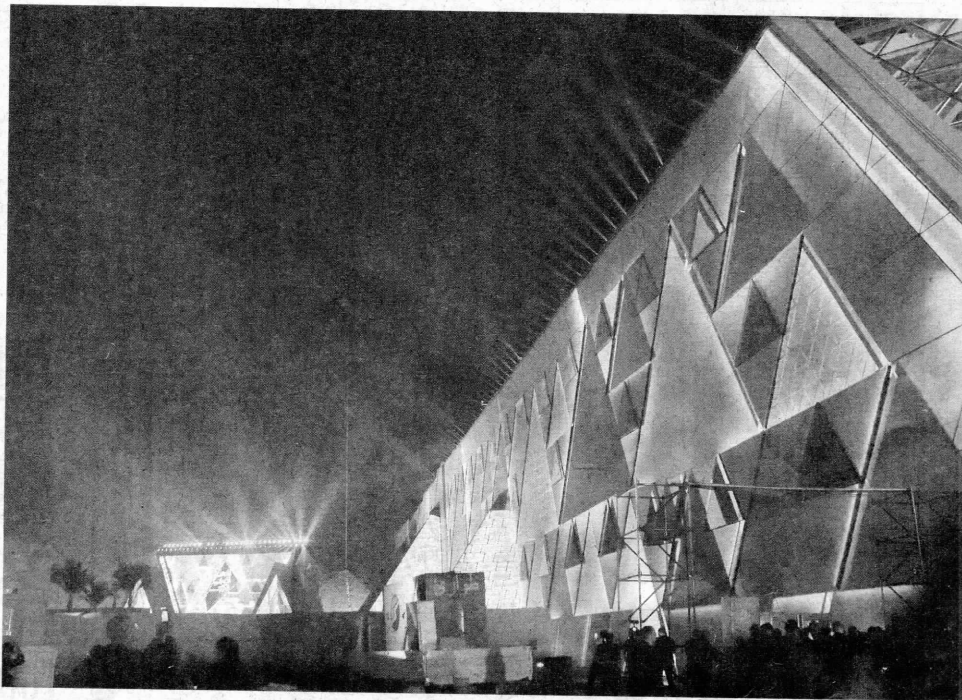
【カイロ時事】エジプトの首都カイロ近郊にあるギザの三大ピラミッド付近で1日、日本の支援で建設された、世界有数の規模を誇る大エジプト博物館（GEM）が全面オープンした。古代エジプトの遺物10万点以上を収蔵。特別ギャラリーでは、「黄金のマスク」を含むツタンカーメンの遺物約6000点が初めて一カ所で同時に公開される。

「国家の夢」

三大ピラミッドから約2キロの場所にあるGEMの敷地面積は約50万平方メートル。単一文明に関する博物館としては世界最大規模という。ツタンカーメンのコレクションに加え、併設の「太陽の船博物館」では日本の調査隊が発掘した「第2の太陽の船」の修復過程を公開。遺物の修復技術向上を研究する保全修復センターや会議ホール、生涯学習センターも設置されている。地元紙アルアハラムは、「オープンにより「国家の夢が実現する」と伝えた。

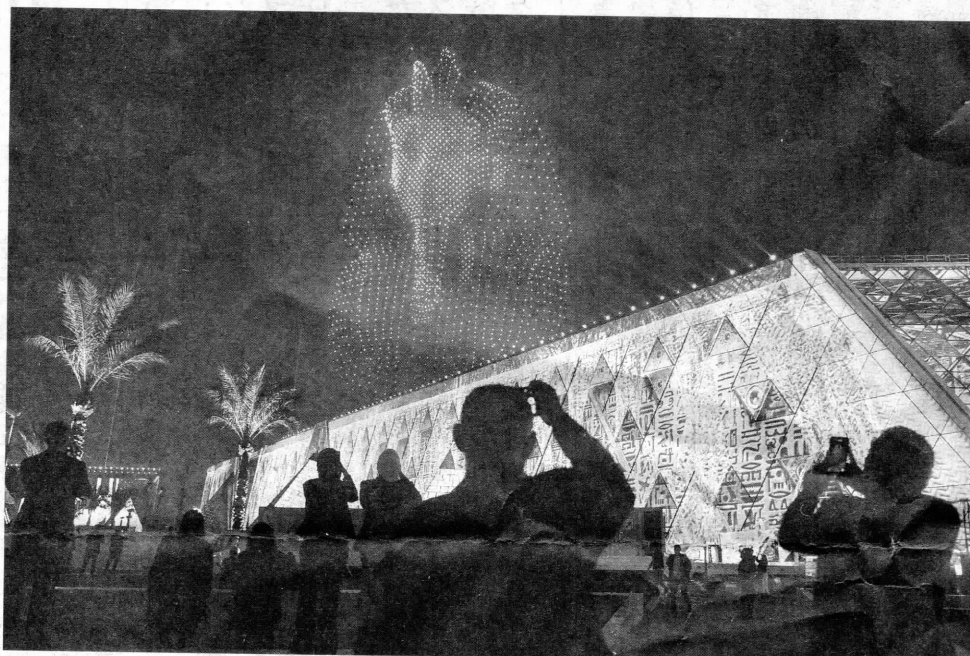
大エジプト博物館オープン

世界最大規模、日本が支援



全面オープンした大エジプト博物館＝カイロ（時事）

GEMは約30年前に構想が動き出した一大国家事業。国際社会で最も深く関与してきたのが日本だった。1日の開館式典でシシ大統領は「歴史の新たなページが開かれる」と強調し、日本による「多



カイロ近郊のギザで、大エジプト博物館の開館式典に合わせて披露された

大なる支援への謝意を表明した。日本は国際協力機構（JICA）を通じて2006年から建設費として約840億円の円供与。日本の研究機関や企業を伝授し、専門家育成に